

育苗期のいもち病防除を必ず行いましょう!

いもち病対策は育苗期の防除が重要です。

- ・田んぼのいもち病は、苗にいもち病が発生し、それに気づかずに田植えすることで発生します。
- ・育苗期のいもち病防除は、田んぼでの発病を防ぐ第一歩ですから必ず行いましょう。育苗箱施用剤では苗に発生するいもち病を防ぐことはできません。



いもち病激発ほ場(8月上旬) 穂いもち被害

育苗期のいもち病防除の手順

種 子 消 毒

育苗期のいもち病防除

次のいずれかを選択

ベンレート水和剤

500倍 500ml/箱
播種時~播種14日後までにかん注
又は1,000倍 1ℓ/箱
播種時~播種7日後頃にかん注



50ℓの水とベンレート水和剤1袋(100g)で育苗箱100枚分ができます(500倍の場合)。



育苗期のいもち病防除：灌注処理

ビームゾル

500倍 500ml/箱
緑化始期にかん注
(べた張り除去後速やかに)



250ℓの水とビームゾル1本(500ml)で育苗箱500枚分ができます。



緑化始期：べた張り除去の様子

本田の葉いもち防除

(育苗箱施用剤、側条施用剤、水面施用剤のいずれかで必ず行う。)

〈注意事項〉

- ビームゾルでは、低温時や極端な高温時(30℃以上)に葉害が生じることがあります。適温管理に努め、健苗育成をこころがけましょう。
- 使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届くところには置かないでください。●防除日誌を記帳しましょう。